

# 令和7年度 西山中学校 研究の構想（案）

## 1 研究テーマ（仮）

### チーム西山で

### より生徒に寄り添う授業を目指して

～対話と ICT を中心に据え、生徒が主体的に学びとる学校へ～

## 2 研究の方向性

ここ数年の取り組みとして熊本市授業研（道徳）に向けた取り組み、対話を中心に据えた校内授業研の実施や SST（ソーシャルスキルトレーニング）の実践を通し、生徒のコミュニケーションスキルの向上や授業へ参加する意欲の向上が見られた。そこで本年度も、対話を中心に据えた授業や SST を通し、生徒のコミュニケーションスキルの向上を目指し、人間力を高めていきたい。また、個別最適な学びを実践するためにドリルパークの活用も推進していきたい。

## 3 実態

現3年生のアンケート結果が以下のようにになっている。

	そう思う	どちらかという そう思う	どちらかという そう思わない	そう思わない
学校の中に、あなたの気持ちが分かってくれる人はいますか	59.0	28.9	6.6	4.8
<b>87.9 → 95.6</b>	62.0	33.6	3.0	1.4
あなたは、授業の内容をよくわかっていますか	21.1	47.6	22.9	6.6
<b>68.7 → 84.0</b>	28.5	55.5	12.4	3.6
自分の考えが伝わるよう、話の組立てなどを工夫して発表していましたか	24.7	45.2	21.7	7.8
<b>69.9 → 80.3</b>	24.1	56.2	17.5	2.3
話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができていますか	32.5	57.2	5.4	3.6
<b>89.7 → 86.9</b>	31.4	55.5	11.6	1.5

昨年度 SST に取り組んだ結果、対話をする機会が増え、生徒たちが以前よりも前向きに学校生活を送ることができるようになったと感じられる。特活部主導で、今年度も同様に生徒のコミュニケーションスキル向上を目的に実施を継続していきたい。

ドリルパークの利用については、本年度活用を推進した「1年理科」と「2年数学」の市学力調査の結果が良好な数値となっている。AI 機能も充実しており、個別最適な学習にも対応できるようになっている。また、「テストパーク」機能が追加され、単元テストなどの自動採点も行えるようになる予定で、先生方の負担軽減にもつながると考えている。

## 4 研究推進の具体的な取り組み

### (1) 授業研究会、教科会の実施

- ・ 初任者研、経年経験者研、市授業研担当校など、学ぶ機会が十分確保されている。  
そこに向けた授業づくりに全職員で関わることで、学びの場とする。

・ 教科書の入れ替えに伴い、教科会を実施し教材研究の充実を図る。

### (2) 対話場面の充実

・ 若鷹タイム（ソーシャルスキルトレーニング）を実施し、生徒のコミュニケーションスキルの向上を図る。

- ・ 授業時の対話のきまりを共通実践し、どの学級で授業をするときも、同じような形式で対話ができるようにし、生徒にとって深まりのある活動になるようにする。

### (3) タブレットの有効な活用

・ ドリルパークの活用を有効に行い、個に応じた指導を効率的に行う。

### (4) 生徒が抱える問題と向き合う

- ・ 生徒が使用するスマホアプリ等は、年々変化をしている。生徒が今、何を楽しみ、何に悩んでいるのかを知る機会をつくり、指導・支援に生かす。
- ・ SC（スクールカウンセラー）の方の講話を聴くことで、生徒との向き合い方など、職員の指導力向上、コミュニケーション力向上を図る。

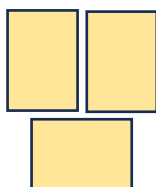
### (5) 保護者・地域との連携

- ・ 生徒が、さまざまな環境で生活していることを知る。
- ・ 三者教育相談、懇談会や学年通信、学級通信などを通して、各家庭への情報提供や啓発を行い、三者（保護者・地域・学校）一丸となって生徒と向き合う基盤をつくる。

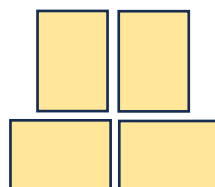
## 5 班活動について

- ・ 班編成は3～5人とする。
- ・ 班活動をするときには、以下の手順で行う。

① 机の向きを変える。（欠席者の席も動かす。）



【3人】



【4人】

5人の場合は  
各学級で工夫を  
お願いします。

- ② 役割を決める。（司会、発表、記録など）
- ③ 相手に伝わるように話す。（話す速さ、声の大きさなど）
- ④ 話しやすい雰囲気をつくる。（反応をする、うなづくなど）
- ⑤ 時間いっぱい考えを深める。広げる。